

創刊第1号

2015 7 / 26 号

ふくしま 再生 短信

飯 館 村 隣 接 活 動 拠 点 ・ 靈 山 セ ン タ ー 紹 介



7月26日午前6時、食堂棟前から浴場棟・宿泊棟・診療棟（再生の会霊山センター事務所）・国道115号方面をのぞむ

✧ 再生への架け橋に ✧



厨房の佐野さん
管理人の菅野佳子さ
んの手でみごとに磨
かれた厨房に立つの
は 今週の食事当番・
再生の会事務局の佐
野隆章さん。

2015年7月26日。この日は奇しくも34年前にこの地に1型糖尿病（インシュリン欠損症）の子どもたちの訓練施設「霊山（りょうぜん）トレーニングセンター」（福島県伊達市霊山町）が丸山博医師と患者である子どもの親たちの手によって開設された記念の日である。

2011年3月11日の東電福島第一原発のメルトダウン事故により本来の目的に使用できなくなっていたこの施設の利用について昨夏、ふくしま再生の会理事長の田尾陽一さんと施設の運営主体の「特定非営利活動法人小児慢性疾患療育会」との間で

協定が成立し、2014年8月より再生の会の活動拠点として発足した。

夏季の利用には宿泊当日の夕食・翌朝食&昼食・施設運用経費しめて1500円のカンパをお願いしている。シーツ二枚（敷き&掛け）持参して下さい（持参無

しは洗濯等の実費千円を負担）。清掃は全員で、食事は都度の当番が担当する（左の写真は豪華朝食！の例）。

私たちはこのかけがえのない出会いに感謝しつつ、霊山センターを大切に活用して行きたいとおもう。
(文責&撮影・編集子)



「霊山トレーニングセンター」

正門の表札「小児慢性疾患療育研究所」・「霊山トレーニングセンター診療所」のすぐ傍に立つ「開所記念之碑」を読んでみる。「慢性小児疾患療

育研究所霊山トレーニングセンターは慢性疾患をもつ小児が自分で病気をコントロールし病氣と共に生きて行くためのセルフケアおよびホームケアを教育するための施設として新界で始めて設立されたものである。

昭和56年7月26日
センター所長 丸山 博
顧問 小泉 春雄
とある。私たちはこの尊い志と子らの真摯な思いを砕いた東電原発事故の罪深さへの慄きを禁じ得ない。



ふくしま 再生 短信

8 / 2 3 懇親会・バーベキュー大会開催決定

2015年8月23日正午、民主催の懇親会・バーベキュー大会が開催されます。関根・松塚の再生を祈念して盛大に行われます。猛史さんからビーフの差入れが予告されています。ご参加大歓迎です。

※ いったてビーフの夢へ ※



猛史さん

飯館村松塚地区の農家のご主人。同時に畜産農家・事業家・改革者である。



2015年7月12日午前10時、再生の会の見学ツアー一行は飯館村にほど近い飯野町の山田猛史牧場を訪ねた。猛史さんは原発事故後は白河市に近い中島村に避難して肉牛を飼育・繁殖する畜産に取り組んでいた。昨年10月には一気に北上し飯館村をすぐ東方にのぞむ飯野町に事業拠点を

移動した。

猛史さんが展望しているのは広大な水田を活用した肉牛の放牧である。乳牛と違い肉牛は放牧により美味しい高級肉になるのだ。猛史さんが手塩にかけて育てているのは全て先祖3代までの血統書のついたブランド牛である。

一行を見送る猛史さんが松塚地区で発行している媒体名

は『ユートピア』である。いったてビーフの夢の実現、それはまさしく僕らのユートピアの実現ではないだろうか。(文



責・写真：短信編集子)





関根・松塚に集う

ふくしま再生短信 2015 8/25 (第3号)

【カット写真(左上から時計回り)】 報告会参加のみなさん、再生の会理事・東大大学院農学生命科学研究科教授・溝口勝さんの総合報告、この日の会合全般を応援していただいた山田牧場主人・山田猛史さん、高橋文男地区長による乾杯音頭、懇親会会場風景、菅野宗夫さんの閉会挨拶 【背景写真】 集合写真撮影に集まったみなさん(一部)

2015年8月23日午前10時、飯舘村関根松塚部落集会所においてふくしま再生の会理事長・田尾陽一さんの司会で関根・松塚地区再生に向けての報告会が開催された。報告会は、関根・松塚地区住民と福島復興農業工学会議(東大・東京農工大・宇都宮大・茨城大などの研究者チーム)ならびにふくしま再生の会との間に締結された協定に基づいて実施されたものである。

この日の報告会に参加した研究チームは、東大から溝口勝、久保成隆、西

村拓、飯田俊彰、茨城大から西脇淳子、のみなさん、再生の会からは放射線測定チームの小原壮二さんが報告を行った。

再生の会による線量測定結果、大学研究室による農地の現状の調査研究について地区住民との間で活発な討議が行われた。最後に高橋文男地区長から「再生の会と一緒に住民が自分の土地を調査することが大切である。この事業に是非参加してください」と呼びかけが行われた。

報告会のあと正午より隣接する大型ハウス内の特設会場でふくしま再生の会+関根・松塚住民主催により、懇親会・バーベキュー大会が盛大に行われた。バーベキューでは猛史さんから差し入れの6kgの肉が大人気で、地区住民、研究チーム、再生の会メンバーに、報告会取材の記者のみなさんも加わって会場のあちこちで交流の輪が広がった。

(撮影・文責:若林一平)

ふくしま 再生 短信

放射線モニタリング陣中見舞記

※ 村民との協働 ※



まずは点検

車載測定装置の点検をする村民測定員（右）と再生の会測定責任者・小原壮二さん（左）

2015年8月9日午前7時、早めの朝食を終えて
短信記者は再生の会・放射線測定

チーム責任者の小原壮二さんに同行して霊山センターを出發した。向かったのは飯館村伊丹沢にある放射線測定車再生2号と再生3号の車庫である。測定車には村民が参加する「飯館村村内モニタリング事業」（飯館村の委託事業）のた

め

めのKEK（高エネルギー加速器研究機構：山内正則機構長）提供の測定装置が積載されている。測定車はスズキ（株）と（株）スズキ自販福島の車両協力を得て、購入の資金は三井物産環境資金の助成金を充てている。

安心安全の核心部＝放射線モニタリングには飯館村の委託事業のほかに再生の会独自の全村測定ほかの各種測定がある。今後の短信で報告する。

午前8時、村民測定員の集合時間である。車載測定装置の点検作業が慎重に実施された後、村民測定員の運転する測定車は出發する。毎月40人の村民が20地区の各戸をくまなく回るルートで測定し結果は村民のタブレット型コンピュータに発信されている。測定車をいつまでも見送る小原さんの後姿（右上の写真）にエールをおく



りつつ現場をあとにした。（撮影・文責：若林一平）

KEK（高エネルギー加速器研究機構）と飯館村再生支援

KEKは、加速器と呼ばれる装置を使って基礎科学を推進する研究所です。最先端の大型粒子加速器を用いて、宇宙の起源、物質や生命の根源を探求しています。

（KEKのHPから抄録）

2015年7月22日、山内機構長の発案で、KEK・飯館村役場・村

民・ふくしま再生の会が参加して、KEKつくばキャンパスでワークショップが開催された。各参加者からの報告と討議のあと、山内機構長から「一点は山林も含めて面の測定、これは空間線量です、二点は水の測定、次は土壌の

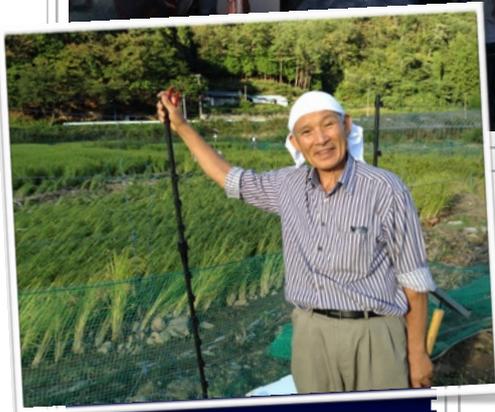


Bq/kgの測定。こういった測定を住民の方と一緒にやってやること。それに加えて田尾さんが言った、国際的にもそういう機会を持つて飯館に貢献できる体制を作ることです。土壌に関しては東大の溝口教授と、水については宇都宮大の大沢教授と連絡を取って、KEKに何が貢献できるか、協力してやっていきたい」との全体総括があった。

【訂正】第2号記事中の『ユートピア』を『ユートピア17』にお詫びして訂正します。

※急報 9/11 真野川上流氾濫※

ふくしま再生短信 2015 9/22 (第5号)



2015年9月11日未明、その前日茨城県常総市で鬼怒川決壊が伝えられた翌日、2011年6月6日以来活動拠点としてお世話になっている菅野宗夫さん（ふくしま再生の会理事・飯館村農業委員会会長）のお宅前の真野川上流が氾濫した。県道31号浪江国見線の佐須滑から入り虎捕に至る宗夫さん宅前を通る村道は2km近くに渡って全面通行止めになっている（9/20現在）。宗夫さん宅付近の村道の破損が特に壊滅的で、路床が流出して板状の路面の舗装が激流の力で道路脇に押し上げられている。牛舎と牧草地がある対岸に架かる木製の橋が流失した。コンクリートの橋は残ったものの村道の陥没によって橋を通る車両の移動はできない状態にある。幸いなことに本宅の冠水はなかった。

復旧は始まったばかりである。宗夫さんのメッセージを深く受け止めたいと思う。（撮影・文責：若林一平）

みなさまへ
宗夫です。このたびの洪水被害に際しまして多くのみなさまより励ましとお見舞いを賜り誠にありがとうございます。自然の恵みの一方で自然の危険と厳しさはつねにあります。人間の智慧によって自然といかに共生していくのかがいま問われています。みなさまと共に、将来に残せるものを考えて復旧に取り組みたいものです。どうぞよろしくお願いたします。2015/9/20

写真説明(時計回り): 電気柵補強作業現場の宗夫さん(9/20撮影)・冠水したサイロ内放射線量測定用施設復旧作業・県道31号線からの村道入り口の「通行止」標識・宗夫さんと明大ハウスを望む全損状態の村道(以上9/19撮影)・虎捕に向かう村道の崩落現場・虎捕側からの「通行止」標識(以上9/20撮影)